

編集後記

本会の世話人であった花田俊典氏が、二〇〇四年六月二日に急逝されました。

氏の呼びかけによってさまざまな方がこの研究会に集い、問題をとともに検討することができました。この場をお借りして氏が会充足の際に書かれた文章をご紹介いたします。

原爆文学研究会の発足について

二〇〇二、二〇〇一、二〇〇一五世話人花田俊典戦後半世紀、「原爆」という「わたしたちの体験」はさまざまに「問題化」されてきました。ご承知のとおり、いわゆる記憶の風化の問題、語り部の語り口の問題、世界的規模のCTBTに関わる問題、あるいは戦争と平和論の問題など、今日なお模索すべき課題は多くあるかと思われます。この会では、これを「文学」、あるいは「文学的」な問題として再考していきたいと考えています。

思えば戦後五十年、「原爆文学研究」と名の雑誌は(わたしの知るかぎり)刊行されてはおりません。これはどういうことなのか。文学というジャンルは、情感を盛り込むことに適した表現形式として当事者(体験者)たちの有効な「記録」媒体として用いられてきました。が、同時にまた、文学はクリエイティブな言語運用の表現形式でもあります。後者の意味において、原爆「文学」は、きわめて今日の

な光景の創造の場とっていいでしょう。の言い方をすると、文学の場における「原爆」の光景は、不断の現在の産物とっていいかもしれません。

これらのことどもを、ゆるやかに意識しつつ、幅広い視野のもとに、お互いの問題意識を交換し、自由に忌憚なく対話する場として、この研究会を考えています。

「原爆文学」の批評を通じていかにして現実的な力を持つ問いを提示できるのか、今後にも念頭に置いて考え続けたい課題です。

この研究会につきましても、解散することすらはずかしいほど、まだ何もしていないという思いもあり、第一一回研究会(七月三日)時の運営会議の結果、世話人を長野秀樹氏(長崎純心大学)にお引き受けいただき、事務局を石川巧研究室(九州大学)に変更して続行することが合意されました。

花田氏の追悼号を、という意見もありましたが、本会の取り組む「原爆文学」という問題の性質を鑑みて、本号は通常通りの形式で発行することとなりました。

何を申し上げても、ものたりなさが残りませんが、原爆文学研究会という語らいの場を用意して下さった花田俊典氏に感謝の意を表し、氏のご冥福を心からお祈り申し上げます。

(N)

原爆文学研究 3

二〇〇四年八月三十一日発行

編集 原爆文学研究会

八〇一八芸〇

福岡市中央区六本松四一二一

九州大学大学院比較社会文化研究院

石川巧研究室気付

発行 侑花書院

八〇一〇三

福岡市中央区白金二一九一六

TEL 〇九三五四〇三六七

FAX 〇九三五四四四一一

定価 一一二〇〇円(本体 一一四三円)

◇書店にない場合は「地方小出版流通センター扱い」とご指定の上、書店にご注文下さい。
◇継続購読は、花書院「原爆文学研究係」にお申し込み下さい。送料は無料となります。